幼稚園參觀記

倉橋生

○羨ましい廣庭

成田幼稚園の遊園

羨ましいのは私立成田幼稚園の廣庭である。敷地參千七十五坪その中から建坪の二百四十餘坪を除いた貳千八百參拾餘坪は、日光豐かに風すが〳〵しい眞乎自由の天地である。之れを幼兒一人に割りあてゝ見れば、極く少く積つても一人で二十坪を占領して居る譯である。成田町の東南方向壑と稱する高地を占めて、殆んど四方が低い谷に劃られた、自然の公園ともいふべき地形になつて居る地坪を測れば貳千八百參拾坪であるが、塀がなく垣のない此の遊園は彼方の山、此方の野、目の屆く限りの廣さである。風が自由に吹いて來る。鳥が自由に翔んで來る。幼兒の歌聲、笑聲が山に響いて反る他は騷がしい車馬の音は全く無い。脅しつける樣な煉瓦塀や、穢らしい塀裏に眼を遮られて、窓の外は車馬往來の喧騷に、耳を聾いらるゝ都會の幼稚園から見れば、たゞもう羨やましい限りである。

二ツの花壇が二百餘坪、同じく二つの築山が三百餘坪、それと二ツの砂場十六坪を除いては、皆一面の芝地である。而も其の中に芝を敷かない生地が處々にわざと殘してあるのが最も嬉れしい加ふるに築山の後、松林の奥などには、野生のまゝの雜草が茂るがまゝに茂らしてあるのも。至極うれしい。乾き切つた煉瓦敷や、反動のないアスファルトで敷きつめて、春くればとて草も出ず、秋くればとて落葉もない都會幼稚園が、たゞ〳〵情けなくなつて來る。

余が此の園を訪れたのは、其の地へ講演の歸途、夕刻の短い時間に過ぎなかつたから、幼兒が如何に此の自然の天地を恣にして居るかは、其の實況を觀ることが出來なかつた。然し、主任猪狩ゑい子氏に導かれて、園舍よりも先づ先きに、此の廣庭に案内せられたるときは、日頃ユートピアーのように描いて居る遊園本位の幼稚園が忽然として幻に出て來たような心持がした。而して此自然の中に遊んで居る幼兒等の心身の健康を胸に美しく描かざるを得なかつた。また、この自然の中に幼兒を自由に保育せらるゝ保姆諸君の喜びをも思はざるを得なかつた。地の利を俟つて人の利が完ふせらるゝは、何も兵法上の眞理のみではない。幼稚園教育にも最大の秘訣である。

所謂、成田山五事業の一としての此の幼稚園の誇りは保姆その人を得て居らるゝことにもあらう。設計上の注意のゆき屆いた園

舍の建築にもあらう。しかもなほ之れに加へて、この廣い自然の庭を惜しげもなく幼兒に與へられてあるを、心にくいほどに、其の誇りだと思ふ、而して余は歸途獨で考へた。あの廣い、土のやわらかい、草の多い、林の茂つた、日あたりのいゝ、幼稚園の遊園は成田の町に必要である如く、否、其の十倍も百倍も、東京に大阪に、京都に、其の他の都會に必要であると。

（尙、此の幼稚園は成田山新勝寺の石川貫首が、同山五事業（中學校、圖書館、高等女學校、幼稚園、感化院）の一として、明治三十八年に設立せられたものである。これは世に知れて居ることで、特記するまでもないが、特に幼稚園が其の五事業の一に加へられてあることを、吾人は愉快とするものである。）

○大きい砂池

双葉幼稚園の新砂場

長い計畫の砂場が出來たから、見に來て來れとの御案内であつた。四ツ谷見附を土手に添ふてまがると、カソリツク風の大建築が先づ堂々として氣持がよい、双葉幼稚園とは此の双葉女學校の中にあるのである。お邪魔をしては却つてと思つて、重いドアーを獨りで開けて入ると、主任の後藤りん子氏は、數人の子供に取りかこまれて、大きい黑板一ぱいに、河馬の頭を書いて居られた余を迎へてちよいと、會釋せられて其のまゝ河馬を續けて居られる。元氣のいゝ、男の子や女の子が、冴え々々しい聲で、面白そうに立ち騷いで居る。余も御懇意づく、其の中にまざつて拜見して居たが、向の方で太鼓の音がしたので、御免蒙つて其の處へ行つて見ると、三四人の子供が樂隊ごつこをして居たところであつた。其の室の一方の隅を見ると、大きな笊の中に大小いろ〳〵の積木が一ぱい入れてある。積木は最もいゝ自由玩具である。子供の氣のむくにまかせて、三十でも五十でも、數を限らずに與へて並べさすがよいといふ、後藤さんの豫れての御意見を思ひ出したそれから又、長さ三尺ばかりの木製の大きな電車があつた。子供を大きく大きく保育しようとする、後藤さんの御考へが、こゝにも現はれて居ると思つた。

呑氣な參觀人が、遠慮もなく一人で大抵全園を拜見〳〵終つた頃である。遊戯室の壁の厚さを感心して見て居ると、今日は雨上りで、外で遊ばすことが出來ませんと云ひながら、後藤さんが來られた。そうして乞ふがまゝに、直ぐ砂場を見せて下さつた。（參觀者の爲に折角子供の喜んで居る繪を中止したり。特に時間外の特別保育をして見せたり、そういふ不自然な素人扱ひの待遇振りをして下さらなかつたことを、余は何よりも先づ心から嬉しく思つた。そして後藤さんに謝した）

成る程大きな砂場である。幅が一間半、總坪が七坪以上もあらう。其の廣い中へ、砂が十分に入れてある。試みに手をついて見ると、心持ちよい程やわらかひ。其の筈である、砂の深さは三尺もあるといふ事である。兩側に添ふて、幅一尺ばかりの長い臺が高さ三尺程に作りつけてある。後藤さんの御話によると、これは校長女史（佛蘭西から來て居られる）の考案の由であるが、至極いゝ思ひつきと思ふ。即ち幼兒は此の砂の池單に砂を弄ばずばかり

でなく、中へ入つて遊ばずのも一の目的であるから、砂の池といふ方がいゝといふ後藤さんの御考へである）の中へ入つて、いろ〳〵の金皿や、箱で砂をすくつては、此の蓋の上で遊ぶのである然し御話によると、子供は此の臺の上で砂を弄ぶと共に、砂の中に座つたり、或は寢たりすることを、大層喜ぶといふことである余は此の說を聞きながら、繪で見た倫敦の某公園の砂の廣場や、ニューヨークのセント、ガブリエル公園とかにある砂遊び堂のことを思ひ浮べた、そうして日頃主張して居る大砂場の實現を喜びに堪えなかつたのである。

砂池を高く覆ふて居る藤棚の上に、薄日がさして來た。上着を脫いでシャツと半ズボンの活潑な男の子が駈けて來て、先生もう外で遊んでいゝでせうと、外遊のゆるしを願ひに來た。先生がこれを許されると、今迄遊戲室で輪飛びなどをして居た子供達がさも嬉しそうに皆外へ出た。そうして砂池の遊びが直ぐに始まつた

お暇をするに臨んで、參觀者の義務として、何か所感を聞かせよとのことであつたから、余は直ぐお答へした。子供さん達が皆著しく血色がよくて、目が活々して居るのを何よりも直ぐ氣附きましたと。

▲寢せつけし子の洗濯や夏の月　（一茶）

▲母親やずゝみがてらの針仕事　（同）

本誌定價

一册郵稅共金拾壹錢　六册前金郵稅共六拾錢
拾二册同金壹圓貳拾錢　郵券代用一割增

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に御送本致します。（振替口座東京一七二六六番）

本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

（庶務上保姆紹介に關する件をも含む）の御手紙は東京市小石川區久堅町七十四番地フレーベル會事務所宛

會計事務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園內、雨森釧宛

本誌編輯の御用務（寄稿、廣告等）は東京府下千駄谷八七八倉橋惣三宛

大正元年八月二日印刷
大正元年八月五日發行

東京府豐多摩郡千駄谷町大字千駄谷八七八
編輯兼發行者　倉橋惣三

東京市本所區番場町四番地
印刷者　平井登

東京市本所區番場町四番地
印刷所　凸版印刷株式會社本所分工場

發行所　東京市小石川區久堅町七十四番地　フレーベル會